

第4回湖南市文化財保存活用地域計画策定協議会 議事録要旨

1. 日時 令和7年10月20日 14:30～16:45

2. 会場 湖南市共同福祉施設 2階大ホール

3. 出席者

[委員] 佐藤会長、青柳副会長、田中健一委員、中島委員、八杉委員、藤支委員、
田中秀明委員、大濱委員、谷口委員

[オブザーバー] 滋賀県文化財保護課 北村参事、園田技師

[事務局] 青木部長、野崎次長、谷口課長、堤課長補佐、滝主査、守武主任技師

[業務受注者] 株式会社イビソク関西支店

4. 欠席者

[委員] 園部委員、佐々木委員

5. 傍聴者

なし

6. 次第

- 1 アンケート、ワークショップの結果について
- 2 湖南市文化財保存活用地域計画素案 序章～第3章 修正
- 3 湖南市文化財保存活用地域計画素案 第4章～第6章
(既往の把握調査、将来像、課題)

7. 議事要旨

◆1 アンケート、ワークショップの結果について

A委員：以前、総合計画のアンケート結果を見たが、今回も同じような結果になったと感じた。市民は文化財を大事なものだと思っているが、それが地域の誇りであり、他の人に発信したいものとは思っていないことを事務局は最大の課題として考えているのか。

事務局：そのように市民が思っていることが最大の課題と考えている。長壽寺や菩提寺地域など、小学生に向けたイベントを地域で行っている中で、文化財は大切なものであるという認識を市民が持つようになってきていることは、アンケート結果からもうかがえた。しかし、アンケート結果で「じまんできるもの」の割合が高くないことから、文化財は他の人に発信できるほどの魅力がないと考えている人が多いのではないかと思う。他者に自慢できるようなものであれば、将来に残していくたいという思いが出てくる可能性があると思う。子どもと大人両方に文化財を魅力があり、自慢できるものと思ってもらえる施策が必要だと考える。

A委員：学校教育と関連をもたせることが、大きなポイントになると思う。現在学校教育では、文部科学省の出した方針にあるように探求や考える力を積極的に求めること

になっている。その観点からご意見等いかがか。

B委員：今回のアンケート調査の結果に大変関心がある。資料4のp. 49～50に「歴史・文化・自然への興味関心」を尋ねる設問があるが、4分の3の子どもが「興味を持っている」と回答をしたことに大きな意味があると思う。この結果は他の自治体と比べても割合が高いのではないか。湖南市は教育方針の三本柱の一つに、「地域の郷土愛を醸成する」を掲げている。学校ごとに取組は違うと思うが、総合的な学習の時間に地域学習を取り入れていることが非常に多い。菩提寺・岩根地域では、フィールドワークで地域の文化財を見学したり、地域の方から話を聞いたりするなど、実際に文化財を見て学ぶ機会を多く設けている。このような地域学習を通して、文化財に关心を持ち、文化財が地域のアイデンティティであるという意識が醸成されていることを今回のアンケート結果からうかがえた。大変うれしいことである。このような意識が育まれていくと、事務局が目指している、文化財を地域のアイデンティティとして捉えることにつながると思う。

C委員：中学校では、総合学習の時間で地域の調べ学習を行っている。その調べ学習でグループに分かれて自分たちの興味関心があるものを調べてもらっているが、調べるだけで満足している。職場体験をしたり、英語や科学の全国大会に出たりしているが、そのような教育の中でその道に興味をもつ子どもたちがいるため、総合学習の時間を通して歴史・文化・自然などに興味をもってその道に進んで行く子どもたちもいると思う。しかし、そのような子どもたちも調べ学習だけで満足しており、勉強や習いごと、部活で忙しい日々の中から時間を作り、好きなことを追求していくことに至っていない。学校教育現場も、総合学習で文化財に関する学習を行っているが、探求するところまでは至っていない。

また、今まで生徒会の役員を担っている子どもたちに地域のおまつりや活動に参加するように声をかけていたが、最近では、市内全ての中学校に通う子どもたちに積極的に参加をするように声をかけている状況である。

A委員：アンケート結果は地域計画第5章にある保存・活用に関する方針に関わる。そのため、アンケート結果から課題や気付いたこと等ご意見いただき、地域計画第5章につなげていきたい。そのほか、ご意見等いかがか。

D委員：長壽寺では石部南小学校と連携して、鬼走り体験を行っている。今年から対象が小学3年生になったが、今まで小学6年生が対象であった。5月に長壽寺に来てもらい、鬼走りを体験してもらっている。太鼓を叩く、鬼役を演じるなど役割を分けて、東寺で八人講を取り仕切る、地域の中で年齢が上から11～19番目の男性たちから指導を受けて実際に行っている。子どもたちの反応はとても良く、今年から小学3年生を対象にしたことにより体験できなくなった小学4・5年生から、鬼走りを体験させて欲しいと要望が出たほどである。実はこの体験を実施している地域と寺側にはある思惑がある。地域に子どもが少ないため、鬼走りをいつまで続けら

れるか分からない。そのため、地域の子どもたちが行事に参加できなくなれば、石部南小学校の子どもたちにお願いしようと思っている。一度でも体験してもらえば、行事も行えるし、興味も持ってもらえるだろうと考えている。学校教育と連携して行事等を体験してもらう場合は、教えるだけではなく、何かあった際に行事に参加してほしいという思惑があってもよいと思う。どの地域でも行事を続けていくことが難しい状況であるため、地域の小学校の子どもたちに体験をしてもらって行事を行える状態にしておくとよいと思う。実際に鬼走りの説明をしている際に鬼役がいなければお願いをしに行くことも伝えており、子どもたちも「お願いされるかもしれない」と思って真剣に取り組んでいる。このようにすれば、子供たちにとっても良い経験になると思っている。

A委員：アンケート結果に行政の努力が足りないという意見が多くある。これは他の自治体で行っても必ず出てくる意見である。行政の仕事が多くある中で、このことを改善することは現状難しいと思う。そもそも文化財を守る責任は行政が持っているが、実際に守るのは住民だと思う。そのことにつながるような一つの方向性が必要である。D委員の述べた取組は文化財の保存・活用を担う人の裾野をどのように広げていくのかということの一つの事例になると思う。

E委員：D委員の述べた取組は良い試みだと思う。滋賀県内でも、子どもが主体の行事が多くある。どの地域も少子化で行事を続けることに苦労している。長浜市で行っている子ども歌舞伎も演じる子どもがいなく、継続が危ぶまれている。そのため、男の子だけではなく女の子にも参加をしてもらえるよう取り組んでいるが、うまくいっていない。湖南市にあるぼんのこへんのこも子どもが中心の行事である。しかし、行っている地域では参加をする子どもを集めることができていない。民俗ではなく一つの地域の文化として学校に受け入れてもらい、連携していくことが大事だと思う。

F委員：菩提寺地域では社寺で様々な行事を行っており、子ども中心の行事も多くある。子どもが徐々に減ってきて、行われなくなっている行事がある。菩提寺地域は新興住宅が多いため、菩提寺北小学校に通う子どもは多くいる。しかし、行事を行う人々は昔から菩提寺地域に住んでいる家庭の子どもに参加してもらうことしか考えていない。そのため、昔から菩提寺地域に住む人々の考えを変えていかないと、行事は全て行われなくなると思う。新興住宅は建ってから既に50年近く経つため、そこで育つ子どもたちのほとんどが菩提寺地域で生まれている。そういう子どもたちが自由に行事に参加できるような体制作りが必要だと思う。そのようなことを地域の人と話し合える場を設けてほしい。

G委員：行事の担い手が今後不足していくことは痛切に感じている。神社の行事に参加するためには、三代その地に住まなければならないという地域もある。そのような方法を取っていれば、当然担い手不足に拍車を掛けていくことになると思う。地域の行

事に、他地域の子どもたちにも参加してもらう方法を取っている事例は増えている。また、小学校での取組について、通常非公開の寺の仏像や建物を公開する際に、地域の小・中学生に解説を行ってもらうという事例がある。地域の小・中学生が自分たちで手書きしたパンフレットを用いていたことが印象に残っている。子どもたちにただ単に行つてもらうだけでは大変負担に感じると思う。例えば行政や学校の先生にサポートに入ってもらえると、子供たち自身が情報を発信する立場になれると思う。湖南市に所在する文化財の魅力を知ることと、地域外に情報を発信することによって、自慢できることが何かを知ることにつながると思う。

B委員：学校教育に歴史・文化を関連付けて組み込むという取組は非常に有意義だと思う。

また郷土愛醸成の萌芽になると思う。まずは自分が住んでいる地域の歴史・文化を知ることが第一だと思う。地域の歴史・文化が良いものと思い、地域外に発信できるものだと思うことができるは、次の段階だと思う。アンケート結果で文化財に高い関心があると分かったことは、今回の地域計画にとって非常に良いことである。一方で、他の地域に住んでいる人に対して歴史・文化を自慢できることが重要ではなく、歴史・文化に誇りを持てるかどうかが重要である。湖南市に残っている文化財が、例えば全国にあるものと比べた際に他よりも優れているという点があれば、それが誇りにつながると思う。湖南市の建築物は全国のものと比べても建築様式が大変優れている。しかし、地域の人は知らないため、知つてもらう機会を設けると誇りにつながると思う。事前に自分の住む地域に優れた文化財があると知つたうえで、知識を後から得ると、より優れていると思える。そのため、文化財を知ることに段階を踏んだらよいと思う。

また、「文化財に关心はあるが勉強会にはあまり行きたくない」というアンケート結果の分析があったが、「勉強会」という言葉を「町歩き」や「見学会」という言葉に変えた方が良いかもしれない。そのほか、行政に対する不満は必ずあるが、文化財は行政が守るのではなく自分たちで守るのだという意識を醸成するためにもしかしたら行政が頼もしくない方が良いかもしれない。

A委員：アンケート結果から分析できた課題とそれに対する方策等は、事務局でまとめた内容で良いと思う。各委員からは地域という考え方に対して多くの意見があったと思う。特に地域を既存の枠組みで考えるのではなく、もう少し大きい枠組みで考えてはどうかというご意見があった。人口が減少するのはやむを得ないため、特に無形文化財等の継承に関してはもう少し大きく地域の枠組みを捉えてはどうかと思う。そして、その枠組みの捉え方のポイントの一つが学校教育との連携だと思う。学校教育との連携がシビックプライドにつながるという方向性を地域計画にうまく盛り込んでいただきたい。湖南市で行おうと思っている取組は他の県ではできないと思う。地域だけではなく他の地域の人にも参加してもらって行事を一緒に行なうことは、都会では難しい。そのようなことができるところも湖南市らしさかも

しれない。

◆ 2 湖南市文化財保存活用地域計画素案 序章～第3章 修正について

H委員：第3章の歴史文化の特性のサブタイトルについて、特性①の案1「豊かな自然と災害の記憶」のようなものは他市町村でも使える一般的なものであるため、「野洲川」や「石部宿」、「湖南三山」といった湖南市特有の言葉を入れた方がよい。そのため、特性①のサブタイトルは案2「野洲川を通じて見る自然の恵みと災害の記憶」が良いと思うが、文が長いため、短くしてはどうか。

G委員：全く同感である。前回の協議会で提示された歴史文化の特性①～④のタイトルには具体的な文言と概念的な文言が混在していた。そのため、メインタイトルを包括的な文言にして、サブタイトルを具体的な文言にしてはどうかという意見があった。その意見を踏まえると、「石部宿」や「湖南三山」、「野洲川」などの具体的な言葉を使用している案2が良い。

H委員：特性①のサブタイトル案2を「野洲川の自然の恵みと災害」としてはどうか。

G委員：「野洲川の恵み」としても良いと思う。

A委員：災害が災いをもたらすものであることは間違いない。しかし、災害によって恵みがもたらされ、新たな産業が生まれるというプラス面もある。その面を本文に記載してほしい。例えば、天井川になると灌漑が行きやすくなるという利点がある。そのため、人為的に天井川にしているところもある。事務局で災害に関する記載を再考してほしい。サブタイトルは案2をもとにした「野洲川の恵みと災害」で良いか。

事務局：特性①のサブタイトルは案2をもとに事務局で検討する。

A委員：p.34の20～21行目に「本市の豊かな自然を支える大地は様々な地層で構成され、これらの地層から得られる～」とあるが、「地層」という言葉に違和感を覚える。例えば、「様々な地質構造で構成され、これらから得られる～」という言葉に修正してはどうか。

H委員：歴史文化の特性②の案1では、「石部宿が織りなす」が「街道の歴史と文化」に掛かっている。石部宿に限らず他の地域にも街道に関する歴史と文化があるため、「石部宿と街道が織りなす歴史と文化」としてはどうか。

B委員：石部駅家は近世の石部宿と同じような場所にあったのか。

H委員：石部駅家の場所は同定されていない。

B委員：石部宿という言葉を使用すると近世のイメージになるため、それ以前から歴史や文化があったことが伝わるような言葉を使用できるとよい。

A委員：石部宿という言葉については、その言葉を使用して具体的なタイトルにした方がよいという意見と、街道の歴史文化について広く捉えられるようなタイトルにした方がよいという意見がこれまでの協議会で何度も出ている。古代からの歴史の連續性を踏まえると、案2が良いと思う。園養山古墳群は石室の形態から渡来人の系

譜を持つのではないかと考えられている。このような古代の地域間をつなぐ人の交流を含めるのであれば案2の方がよい。

B委員：石部宿という言葉を使用しないのはもったいない。「石部宿と街道」とし、古代の歴史を含めるとよい。

事務局：石部宿という言葉は前回の協議会で、「サブタイトルに入れて欲しい」という要望があったため、今回サブタイトルに使用した。

A委員：では、石部宿と街道を併記させて、街道という言葉の中に古代の東海道の要素を含めることとし、特性②のサブタイトルは案1を修正したものとしたい。

歴史文化の特性③のサブタイトル案2にある「湖南三山」はいつから使用し始めた言葉か。

事務局：「湖南三山」は平成17年に合併してから使用し始めた言葉である。

A委員：必ずしも歴史的な言葉にこだわる必要はない。そのことを踏まえてご意見いただきたい。

B委員：歴史的な言葉ではないものは、括弧を付けて記載することがある。近年できた「湖南三山」がサブタイトルに当たり前のように使用されていることが気になる。計画内で近年できた言葉であると説明する必要があると思う。

A委員：「湖南三山」を湖南らしさとして使用してもよいかもしれない。

事務局：注釈で説明するか、初出で「(以下、「湖南三山」という。)」と記載するのか検討したい。

H委員：常楽寺・長壽寺・善水寺をまとめた良い言葉を使用したい。例えば、密教信仰や山岳信仰といった言葉であれば良いと思う。そのような言葉であれば括弧書きをしなくてもよい。

D委員：サブタイトルに「湖南三山」を使用することに違和感を覚える。天台密教だけではなく、修驗道もあったため、どのような言葉を使用するのか決めるのは難しい。しかし、湖南三山よりは天台密教などを使用してもらえるとよい。

H委員：湖南市として世に周知したい言葉を使用してはどうか。

B委員：建築用語だと、常楽寺・長壽寺・善水寺にある建物は中世和様仏堂と言う。全国でも中世和様仏堂でトップクラスなのが湖南三山である。しかし、中世和様仏堂という言葉は一般用語ではないため、計画内で使用するとかえって分かりづらくなる。密教などの古くからある信仰の要素を入れたほうが良い。

事務局：滋賀県文化財保存活用大綱には「国宝善水寺本堂、国宝長寿寺本堂、国宝常楽寺本堂など、わが国を代表する仏堂建築は枚挙に暇がありません」という記載がある。

B委員：仏堂建築だと捉えられる言葉の意味が広すぎる。

A委員：歴史文化の特性③は寺ではなく、信仰が大きなポイントとなる。そのため、信仰を軸にしたサブタイトルにしてはどうか。ちなみに、無形文化財を含めた信仰と祭りを仏教文化に紐づけて本文に記載してほしい。

G委員：サブタイトルは中世に特化させたものよりも、古代から近世、近代までの歴史を意識したものにするとよい。常楽寺・長壽寺・善水寺は山の仏教だと思う。山に所在する寺を指す明確な学術用語はない。「山寺」という言葉を使用している事例はいくつかある。かつては山林寺院や山岳寺院という用語を使用していたが、難しい言葉であるため、近年は山寺を使用するようになった。

B委員：湖南三山という言葉を使用することには違和感を覚えるが、一方で固有の地名を使用しないともったいないと思う。

D委員：常楽寺と長壽寺は阿星山、善水寺は岩根山が山号になる。そのため、山という言葉を使用したらよいと思う。

G委員：例えば「湖南の山々に育まれた信仰と文化」としてはいかがか。

A委員：G委員からご提示いただいた案でよいか。

委員一同：異議なし。

D委員：歴史文化の特性④のサブタイトルは、住人としては案2が良い。

A委員：先ほどの議題で「地域」という枠組みを柔軟に考えてはどうかという意見が出たため、まつりが地域をつなぐという意味をもつ案2の方が良いと思うがいかがか。

委員一同：異議なし。

A委員：歴史文化の特性④のサブタイトルは案2を採用する。

滋賀県：初めて「湖南三山」を聞いた時、なじみがない言葉だと思った。しかし、年月が経ち、広く知られる言葉になってきたと思う。前回の協議会で、「今回の地域計画は地域づくりや観光資源につなげたいと思っている。」と事務局が述べている。「湖南三山」は古くから使われてきた言葉ではないが、誰もが知っている言葉にはなってきたと思う。

A委員：「湖南三山」は本文中で使用して定着させていければ良いと思う。第3章以外でご意見等あるか。

委員一同：特に意見なし。

◆ 3 湖南市文化財保存活用地域計画素案 第4章～第6章

◇第4章

G委員：p. 40～41に記載されている課題の中には、現状にあたるものがあると思う。既存の調査に関することが課題に記載されているため、現状に記載して整理をしたほうがよい。

A委員：課題を記載する項目に現状が書かれている。課題から現状を抽出し、「(2) 文化財の調査に関する課題」を、現状を記載する項目にした方が良いということか。

G委員：p. 39に「(1) 文化財の調査に関する現状」があり、調査の実施状況の表だけ掲載されている。「(2) 文化財の調査に関する課題」に現状で行われている調査の内容や既に刊行されている町史に関する情報が記載されているため、「1. 国、県、

市が実施した文化財に関する把握調査」に記載した方が良い。

A委員：「3.これまでの文化財の調査に関する現状と課題（2）文化財の調査に関する課題」から「1.国、県、市が実施した文化財に関する把握調査」に記載すべき内容を抽出すべきということか。

G委員：そのとおりである。

A委員：p. 38の21行目に「旧甲西町及びで」とあるが、「及び」の後ろが記載されていないため、修正をお願いしたい。

E委員：これまでに議論してきた課題を解決するために、具体的に行えることとして文化財関連施設である東海道石部宿歴史民俗資料館の整備が必要だと思う。各基本方針に係る課題で記載されたりされなかつたりしているが、本当は全ての課題で記載が必要である。調査・研究するだけではなく、その成果を確実に蓄積し、かつ市民に周知する役割を持つ施設が東海道石部宿歴史民俗資料館だと思う。

A委員：調査拠点としての東海道石部宿歴史民俗資料館の現状を記載する必要があると思う。

H委員：課題に記載した方が良い。調査やその成果を蓄積する拠点として東海道石部宿歴史民俗資料館の整備が必要であると記載してはどうか。

A委員：第4章にはそのように記載することで良いと思う。第5章以降で東海道石部宿歴史民俗資料館の活用を挙げると良いと思う。

B委員：表10に多くの調査が挙げられているが、全て報告書が出ているという認識で良いか。また、図書館に配架しているものか。調査名と書籍名が異なることがあるため、読み手の利用を考えると調査報告書を一覧にした方が良いと思う。調査名と書籍名を併記しても良い。

A委員：書籍名を一覧にするとページを多く使用することになる。特に埋蔵文化財の調査報告書は相当数がある。

B委員：一つの調査につき報告書を一冊刊行しているものではないのか。そうであれば全ての調査報告書を掲載した方が良いと思う。本文に掲載することが難しいのであれば資料編に掲載しても良いと思う。

A委員：文化庁が作成した『文化財保存活用地域計画作成のためのハンドブック』を見ると、調査報告書を調査としてまとめている自治体と調査報告書を全て一覧にまとめている自治体のどちらもある。

滋賀県：読み手の利用を考えると、全ての調査報告書が一覧にまとめられている方が良いと思う。ページ数を多く使用しないのであれば、そのようにしてはどうか。

A委員：調査報告書は全て市で把握しているのか。

事務局：調査報告書として刊行されているものはおおむね把握している。

A委員：埋蔵文化財については本格的に調査を行い、報告書を刊行しているものだけ一覧にまとめてあればよい。

H委員：いずれにせよローデータとして残しておくと良い。ページ数を多く使用しないのであれば地域計画に掲載する方向で良いと思う。

A委員：『文化財保存活用地域計画作成のためのハンドブック』を見ると、町史の刊行にあたって調査した成果を全て掲載している自治体もある。調査成果を調査報告書等で刊行しているものは全て計画に掲載する方向でお願いしたい。

B委員：建造物の場合は修理工事報告書が刊行されている。本格的な調査ではないが、それに準ずる調査を行っている。湖南市では修理工事報告書は刊行していないのか。もし刊行しているのであれば一覧に掲載した方が良い。

事務局：過去に善水寺や長壽寺の弁天堂での修理工事で報告書を刊行している。

A委員：では、修理工事報告書も調査報告書一覧に掲載する方向でお願いしたい。

◇第5章・第6章

事務局：第5・6章では同じような文言を繰り返しているところがあるため、課題・方針の流れが分かりやすいようレイアウトを調整したいと思っている。例えば、第5章で示した将来像を実現するための現状をまずは示し、その後現状に対する課題を、最後に現状と課題を受けた方針を示すという流れにした方が分かりやすいのではないかと考えている。

A委員：第5・6章は似ている文言が多く、冗長な印象を受ける。第5・6章は地域計画の最も重要な章だと思う。そのため、事務局から提案があったように将来像・現状・課題・方針の流れが分かりやすく、内容の要点を簡潔に記載する必要がある。第5章は「1. 文化財の保存・活用に関する将来像」を今回の協議会で出た意見を踏まえた内容に修正したうえで、「2. 文化財の保存・活用を実現するための方向性」にある基本方針を箇条書きで記載するというご提案、第6章は将来像実現のための課題を明確にし、それを踏まえて方針を示すというご提案だったが、ご意見等いかがか。

委員一同：特に意見なし。

A委員：ではそのように調整をお願いしたい。

第5・6章は、議題1でいただいたアンケート結果から見える課題を念頭に置いて検討していきたいと思うが、ご意見等いかがか。

H委員：計画内で使用している用語の解説を巻末や欄外に入れてはどうか。

A委員：計画のどこかに注釈を入れて内容を充実させて欲しい。

事務局：本文内に都度注釈を入れるのか、巻末に用語集として入れるのか、どちらが良いか。

A委員：見やすさを考えると、本文内に注釈がある方が良い。初出のページに入れてはどうか。

D委員：巻末に用語集として入れるよりも、本文内に注釈を入れる方が良いと思う。例えばある寺が「湖南三山」から撤退するとなると、用語として成り立たなくなる。その

ため、「湖南三山」であれば、初出のページに「常楽寺・長壽寺・善水寺の3つの寺を指している」と記載してもらえるとよい。

滋賀県：「湖南三山」の場合は、歴史的呼称ではないことも記載してほしい。

A委員：用語の解説の仕方は読みやすい方法を取っていただきたい。

第5章で示された将来像と5つの基本方針に対して異論はあるか。ちなみに、将来像や基本方針は、『文化財保存活用地域計画作成のためのハンドブック』に準拠して設定しているのか。

事務局：そのとおりである。

G委員：p. 42の8行目に「他地域からの人口流入により、文化財の適切な保存・継承が難しくなってきてている。」とあり、人口流入に対して否定的に考えているように読み取れる。「高齢化や人口流入などによる社会構造の変化によって」とまとめはどうか。

B委員：地域計画の中で文化財に対する考え方を記載する章はどこか。例えば、文化財を保存するうえで湖南市らしさが重要であるなど、地域計画全体に関わる考え方はどこかに記載した方が良い。

A委員：文化財に対する考えは序章で示されている。また、第5章で文化財の保存・活用に関するアクションプランの基本的な考え方を整理している。

5行目に「これらの文化財は第3章で示した本市の歴史文化である本市らしさ」とあるが、「本市らしさ」が「歴史文化」ではないのか。現状の記載の仕方では、本市らしさが過去のものであるかのように読み取れる。

事務局：文言を事務局で検討する。

B委員：第6章の基本方針5の①の現状について、子どもたちの文化財への興味関心が高い要因は、全ての小学校で平松のウツクシマツ自生地に見学に行っていることだけではなく、しっかりと系統立て地域の人と一緒にふるさと学習を行っていることだと思う。菩提寺北小学校でも菩提寺地域の歴史をフィールドワークして学ぶことでインプットし、それを発表することでアウトプットするという教育を行っている。現状に地域の人とともにふるさと学習を行っていることを記載してほしい。

A委員：議題1で議論があったように、地域計画では学校教育が重要なポイントになる。基本方針5の現状に学校教育との連携についてもう少し具体的に記載した方がよい。東海道石部宿歴史民俗資料館についても基本方針5の課題として取り上げた方が良いと思う。東海道石部宿歴史民俗資料館については全ての方針に関わる課題でもある。文化財を保管することだけではなく、活用することにも着目して現状・課題を記載いただきたい。ちなみに、遺跡から出土した遺物は市で保管しているのか。また、どこに保管しているのか。

滋賀県：県で調査した遺跡から出土した遺物は県で保管している。旧町で調査した遺跡から出土した遺物は市で保管していると思う。

事務局：収蔵庫内の遺物の保管場所は圧迫している。民具は保管場所が足りないため、色々な場所で保管している。

A委員：そのような現状を計画に記載した方が良い。特に民具と出土遺物は保管に適した環境が異なるはずだが、整理されずに一緒に保管しているところが多い。

「基本方針1 文化財をみんなで知る」の現状・課題・方針についてご意見等いかがか。

B委員：小学校は文化財を知るための窓口だと思う。学習指導要領にも明記されている。当然のこととして記載していないのか。

D委員：地域学習として、小学校だけではなく、中学校や高校からも寺に見学に来る。そのような取組を行っていることから、学校は文化財を知つてもらうための窓口になっていると思う。

F委員：文化財を子どもたちに実際に見てもらって教えていくことも大事だが、学校の先生がどの程度知っているのかも大事なことである。普段子どもたちが関わっているのは学校の先生である。学校の先生は地域の歴史についてあまり詳しくない方が多い。先生に文化財に触れてもらう機会を設ければ、子どもたちに教える際に、子どもたちの反応も変わってくると思う。

B委員：学校の先生は勤めている学校がある地域のことしか分からぬ。担当の先生は地域学習を行うにあたって、地域の人から事前に話を聞いたり、現地を見に行ったりして学ぶことはしている。そうでないと子どもには教えられない。しかし、学校の先生全員に同じように地域の文化財について学んでもらうことは難しいと思う。

A委員：学校教育との連携に関する現状・課題・方針は、基本方針5に集約しているのか。

事務局：そのとおりである。

A委員：では、学校の先生への働きかけも重要であるというご意見をいただいたため、基本方針5の課題・方針に記載いただきたい。基本方針1には主に調査・研究の現状・課題・方針が記載してあるが、おおむねこれまでの議論で出た課題どおりになっていると思う。

G委員：p. 42の「③調査・研究成果の公開」に遺跡地図のホームページでの公開について記載されているが、旧町の町史をホームページで公開していればその旨を記載してほしい。また、紙媒体とホームページでの報告書の公開は、p. 39にある調査報告書も含めて考えているのか。

事務局：今後刊行する調査報告書の公開を考えている。

G委員：旧町の町史の公開は重要なことだと思う。

事務局：『新修石部町史』は湖南市立図書館でデジタルアーカイブ化している。

G委員：そうであるならばよい。

A委員：「東海道石部宿歴史民俗資料館を整備する」という方針に、文化財の保管施設としての課題を含んでいるという認識で良いか。

事務局：現状、東海道石部宿歴史民俗資料館の収蔵庫に保管場所の空きはない。災害などで寺に何かあった際の文化財の一時的な保管場所としての機能を持たせたいが、現状は一時的な保管も難しい状態である。その点も踏まえて文化財の保管場所の確保を考えていきたいと思っている。

H委員：今年度、滋賀県博物館協議会で、災害時の文化財の一時避難に関する体制の研修を行った。そのような取組が行われていることも踏まえて文化財を保管する施設について考えていくべきである。また、そのような取組が行われていることを差し支えなければ地域計画に記載してほしい。

A委員：基本方針5の方針に「②文化財の保存・活用に取り組む体制を整備します」とある。滋賀県博物館協議会は他機関との連携になると思う。それ以外の他機関や大学も含めた連携も考えてほしい。

G委員：基本方針2の③に「情報提供と対策支援に取り組みます」とある。情報提供は防災・防犯対策のマニュアルを整備し、周知することだと思う。一方、対策支援は財源確保にも関わることだと思うが、この文言だと行いたいことが曖昧な印象を受ける。これは何を行うことを想定した文言なのか。

事務局：例えば防犯カメラの設置に関する補助金の確保などを想定している。

G委員：他県の事例だが、対馬市では、過去に文化財の盗難被害が何度か発生したことから、指定文化財以外も防災・防犯設備の設置に関する補助金の対象としている。地域計画は文化財の活用も重視した計画だと思う。例えば、活用に関連させて防災・防犯の補助を考えていくことも方法の一つだと思う。

A委員：石造の文化財だと、広く世の中に知ってもらう方が、常時来訪者がいるため、逆に防犯に役立つという事例もある。それも一つの方法だと思う。基本方針5の①に学校教育・生涯学習との連携に関する記載があるが、基本方針4にも記載した方が良いと思う。

B委員：子どもたちが地域とともに活動する取組を行っているため、基本方針4で記載しても間違いはない。湖南市にある全ての学校はコミュニティスクールとなっているため、地域コーディネーターが配置されている。地域コーディネーターが学校と地域を繋いで、カリキュラムを考えてくれている。そうした学校と地域との共同学習の中で文化財を活かした様々な取組が行われているということ、そしてこれからも行っていくことを記載してほしい。

A委員：基本方針4の現状で触れていただきたい。

B委員：昨今、インバウンドで日本に外国人が多く訪れている。そのような旅行者の視点を入れても良いと思う。文化財の掘り起こしには市外の人の目があるとよい。そのことを地域計画に記載しても良いと思う。

A委員：多文化共生の視点は記載してもよいと思う。また、観光とインバウンドの問題は計画に記載してほしい。

D委員：文化の違いで境内を荒らす人がいる。そのため、寺は祈りの場であるため、荒らしてはいけないことを外国人に伝えられる取組ができれば、無用な心配は必要なくなる。

B委員：外国人もそうだが、日本人にも文化財を荒らす人がいる。地域内で醸成されるものと、地域外との交流から醸成されるものがあるため、その視点も地域計画にあると良い。

基本方針1の現状・課題・方針について、専門家が調査を行って知るという内容になっているが、湖南市らしさを発見するという市民からの目線も必要ではないか。歴史的価値の有無ではなく、市民が愛着を持てる文化財を掘り起こしていくという視点もあると良い。また、「みんなで発見する」という視点も入れると良い。

A委員：オブザーバーの滋賀県からご意見等いかがか。

滋賀県：アンケートの結果から、市民は、文化財は大切だが、誇りに思えるものではない、ありふれたもので特別なものではない、湖南市ならではのものではないと思っていると考えられる。これは地域計画の将来像が市民に伝わっていないため、このような考え方を持つのではないかと思う。地域計画を作るうえで重要なステークホルダーは市民である。そのため、市民に将来像を理解してもらうことが重要になる。市民に将来像を伝える場の一つが学校教育ではないかと思う。ぜひ、学校教育うまく連携していただきたい。

また、歴史文化の特性を4つ挙げているが、これらを逐一説明することは大変で、聞く方も難しい。できれば一言で説明できるようなものがあればよいと思う。

A委員：歴史文化の特性を一言で説明できるようなものについて、次回の協議会までに事務局で検討してほしい。

滋賀県：湖南市の地域計画では学校教育が一つのキーワードになると思う。文化財を保存・活用していくうえで学校教育との連携は重要だと思うため、その視点を地域計画にしっかりと入れてほしい。

A委員：今回の協議会で第5・6章について、多くのご意見をいただいた。事務局で修正いただき、次回の協議会で議論させていただきたい。

◆その他

事務局：本日お渡しした資料の中でご不明な点やご意見等ございましたら、事務局までご連絡いただきたい。第5回協議会は1月21日（水）、第6回協議会は2月9日（月）を予定しているため、次回以降もよろしくお願いしたい。